令和８年度第１回豊明市地域共生社会推進委員会議事録

日　時	令和 8 年 8 月 22 日（金）　15:00～17：35
会　場	豊明市共生交流プラザ　北館 3 階　活動室 2
出席者	委員：三矢勝司、塚本江美、森顕子、長山加代子、森紫歩、青木廣康、糸魚川幸江、斎藤純恵、森田崚介、小田典夫、寺本郁夫（以上 11 名） 豊明市：共生社会課長、共生社会課長補佐、地域共生担当係長、協働推進担当係長、担当職員（2 名） 傍聴者：0 名

議　事

１　課長あいさつ

２　委員変更に伴う新任委員の挨拶

綾部委員の後任となる塚本委員より挨拶。

３　前回の振り返り

豊明市地域共生社会推進指針の策定についてパブリックコメントを実施

→パブリックコメントにおいて、意見がなかった旨報告。

４　報告事項

資料２－１、２－２、２－３によりロジックモデルとアクティビティを説明

ロジックモデルと資料をもとに説明。市がどう働きかけていくかを考えているため委員に意見を求める。

【質疑・意見交換】

・地域づくりコーディネーター、初期アウトカム、事例の蓄積とあるが、具体的にはどのように蓄積しているのか。

→月１回コーディネーター会議を行い共有している。新しく得た内容を協議、対応している。活動の展開として就労の働きかけ、子どもの日中の受け入れなど、活動を多世代、多分野に広げている。

・共有して活動していくことは理解した。課題は蓄積と見る。人などの動かない物、例えば紙などに行うことは考えているか。

→如何にコーディネーター人材の育成が重要になると考えられるので、指導育成を行っている。当市は高齢分野に強いため、高齢分野内でも経験を分散させ継承している。

・今の意見は可視化も大事で、可視化で表現できるようになるとよいということ。

・健康麻雀をやっているが、登録も増え１日の参加者も多く、参加者も依頼も日に日に増えてきている。しかしインストラクターとなる人が少ない。各地域や各課でもインストラクターの有料化が進んできており、インストラクターの育成が必要と感じている。
また、健康麻雀に小学生がお父さんに連れられてきたが、６５歳以上を対象としているためお断りをした。こういった事業を、どこで・誰に・何を・やっているのかが参加者、現場の人を含め市民に届いていない。インストラクターの育成と、通知は並行して行う必要がある。
→麻雀大会の参加者増は大会開催も要因かと思う。また対象とならない人については共生社会課に繋いでいただければ。そのために我々も出向きます。
・インストラクターを増やす件についての対応は難しいか？是非掘り下げてほしい。
・地域活動の中で、一般論としてだが、それぞれの区長さんがいて、居場所づくりをしたりサポートしている。一方でなり手不足の問題もある。どういう働きかけを行うか。
・実際にアクティビティが起きた時、起こした時にマネジメントするポジションが不足することが地域活動では起こりがち。豊明市では気にしなくてよい？
→豊明市でも起きている。ここでいうと発掘をポイントとして挙げている。
・出席数でポイントを付けて、ある程度ポイントが溜まったら教えられる人だろうと判断し、声掛けをするとか。
→健康麻雀では出来そうか？
・教えられると思うが、高圧的になる人もいて一概には言えない。
・ポイントだけではなく、適任であるかも現場で見ながら指名するのはどうか。
・それは良いと思う。

・この資料だけでは市民は理解できないのでは。情報を提供しないと伝わらない。例えば広報誌や公式 LINE などを活用し情報提供を行うなどはどうか。
→市が行っている内容を関係機関に伝えるということ？ホームページや LINE はあるので行えるが、伝わらないことも多々ある。そういう時の手法はどうするかも考えなければならない。
・関係機関ごとに行うのは大変。
・困った時に記入できる欄を作り、困り事の相談先などを書いておくのはどうか。市のホームページは見づらいところがある。

・区長の内容も市民には伝わっていないのでは。連合会での話も含め情報発信していくと良いのでは。
・孤独孤立に対し、対処的な話、予防的な話を並行で行えれば良いのでは。例えば地域での良い取り組みがあれば地域を超えて共有できると良い。子ども食堂や、ゲームによる居場所づくり等を行うことで孤立しない環境ができれば良いと思う。
→ベストプラクティスから学ぶ。当事者が何を必要としているのかを、実際に行っている人から学び広めていく。連合会にも活用出来れば良いと考えている。
・区や町内会以外にも社協も地域づくりを行っている。共生社会課は個→全体を行っているが、全体→個の流れが見えてこない。今まで活動していた市民活動団体の姿が異なってきている。市民活動団体の強みを理解し活かせれば多くの人を巻き込みながら対応できるのでは。

→市民活動が外から見づらくなっていることが課題と考えと考えているので、受け止めたい。
また社協とカラットの繋がりが強くなると良いと考えている。

・資料２－３　コミュニティサークルにある「個人が出会う機会を作る」といった集団形成の視点も必要。
・窓口で話を聞き、どういった要望があるかを引き出して、出来る限り叶えることを重要視している。先に意見で出た可視化といったように、関わっている人しか知らないのが現状であり、可視化されていないと思う。活動状況の情報発信を広くしていくことも考えるのはどうか。
・例えば、民間企業はどこに当てはまるのか？民間企業でも地域活動に関わっていることがあるので、豊明市民が働いている企業にも発信しているとよいのでは。会社の掲示板など手の届きにくい場所も活用すればきっかけづくりになると思う。
→民間企業を入れるかは迷った。民間企業への働きかけはカラットやコーディネーターの働きかけ先の１つあるため、今後はもう少し見えるようになると考えている。
・例えば商工会議所への働きかけもあるとよい。
・市民活動団体やNPOが見えづらい。趣味的な活動だけではなく、社会貢献のマインドのある団体のプレイヤーが動きやすくなる働きかけが必要ではないか。このプレイヤーは企業にもいる。社会貢献団体が大きな推進力を持っているのではないか。
・団体とは異なるが、外国人の多くが豊明団地に住まわれている。孤立しているかの前に孤立が分からないのでは。孤立とは何か市の方が説明するのか？そうであるなら協力して動きたい。
・外国人の関係については委員会でももっと取り上げてよいのでは。

５　その他

・次回委員会は、2月12日（金）に開催を予定。詳細は後日案内する。

以上